排卵障害のない症例におけるレトロゾール排卵周期凍結融解胚移植での妊娠に寄与する因子の検討

○園田桃代　小林正知　岡美友　石原萌絵香　高橋海成　植田那愉　濱田亜紀
羽渕さゆき　桑原聖子　安田和代　中矢美淑子　上田奈々　表摩那　小柳良子

園田桃代ARTクリニック

目的

近年、凍結融解胚移植（FET）においてはホルモン補充周期（HRC）における周産期合併症リスクを考慮し排卵周期FETが増加している。
現在、当院でも排卵周期FETはFETにおける約40%を占めており、妊娠率はHRCと同等の結果である。

排卵周期FETにおいては排卵障害を有するPCOS、また近年は排卵障害のない症例においてもレトロゾールの有用性が報告されてきている。

以前われわれも、排卵障害のない症例のFETにおいて、レトロゾール排卵周期は自然排卵周期と比較して以下の傾向があるが、妊娠成績に有意差はないことを報告した。

・子宮内膜厚が有意に薄い傾向。

・月経周期が長い症例が多く、ET日も遅れる傾向

・卵胞発育不良による周期キャンセルは少なく、ETキャンセル率の上昇も認められなかった。

今回われわれは、レトロゾール排卵周期FETでの妊娠群と非妊娠群を比較し妊娠成立に関与する因子を後方視的に検討したので報告する。

方法

対象

2023年12月-2024年12月
月経周期順調（24-38日周期）
単一胚盤胞FET
＊除外：子宮奇形、PGTA症例

76症例　101周期

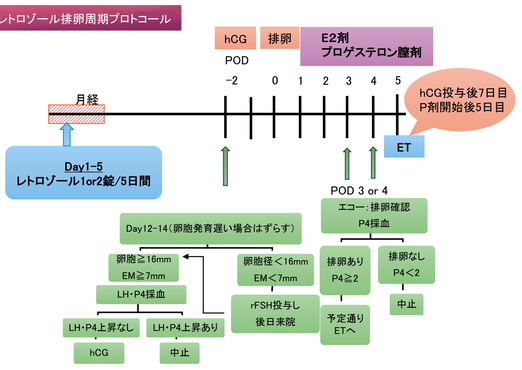
妊娠群
（P群：42周期）

非妊娠群
（nonP群：59周期）

検討項目

- 年齢
- AMH
- BMI
- 月経周期
- 不妊期間
- 経産率
- ホルモン値
  - ET決定時P4・LH
  - 排卵確認時P4
- 子宮内膜厚
  - ET決定時
  - 排卵確認時
  - ET日
- 16mm以上の発育卵胞数
- ET日の月経周期
- 良好胚率

レトロゾール排卵周期プロトコール



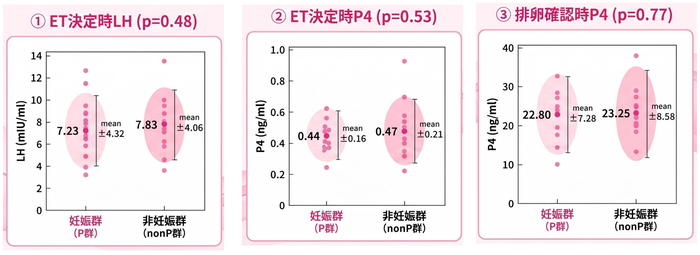
結果

結果①

	妊娠群(P群 n=42)	非妊娠群(nonP群 n=59)	p値
年齢	33.8±3.7	35.2±3.0	0.04 ＊
AMH（ng/ml）	4.1±2.7	3.5±1.8	0.18
BMI	21.1±3.4	20.5±3.2	0.51
月経周期（日）	30.3±2.1	30.8±2.7	0.33
不妊期間（月）	24.3±12.4	29.7±18.3	0.08
経産率（%）	47.6	37.3	0.31

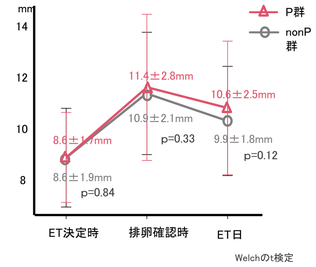
Welchのt検定

結果②



Welchのt検定

結果③　子宮内膜厚



Welchのt検定

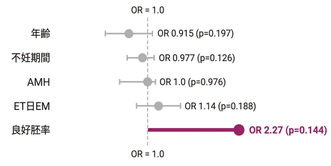
結果④

	妊娠群（P群）	非妊娠群（nonP群）	p値
16mm以上の発育卵胞数	1.21±0.46	1.25±0.52	0.63
ET日の月経周期(day)	19.6±1.8	19.4±2.0	0.63
良好胚率（3BB以上）	88.1%	72.9%	0.06

Welchのt検定

結果④　多変量ロジスティック解析

説明変数：p<0.2であった因子（年齢、不妊期間、AMH、ET日EM、良好胚率）
目的変数：GS+



良好胚率（胚質）において、OR　2.27と高い傾向であったが、いずれの因子も統計学的有意差は認めなかった

結論

1

レトロゾールを用いたFETでは、適切な排卵同期管理を行うことで、患者背景（年齢やAMH等）の影響を受けにくい安定した治療法となる可能性が示唆された。

2

ホルモン動態および子宮内膜厚の推移において、妊娠群と非妊娠群の間に有意な差は認められず、均質なET環境が形成されていることが示唆された。

3

このような安定した条件下では、統計学的有意差は認められなかったものの、臨床的には胚の質が妊娠成立に寄与する主要な因子である可能性が示唆された。

第44回日本受精着床学会総会・学術講演会
利益相反状態の開示
筆頭演者氏名：園田桃代
所　属：園田桃代ARTクリニック

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

園田桃代 ART クリニック
Assisted Reproductive Technology

@SONODAMOMOYOART